

実施年度	令和 5 年度
事業の名称	こども対話カフェ(こども対象哲学カフェ)
団体名	対話カフェつむぎ
担当課名	教育相談室

【評価の内訳】

協働事業の評価	評価数
当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。	4
ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。	3
協働事業として、うまく機能しなかった。	0

【事業に関する意見】

1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民サービスの向上につながったもので、適切な協働事業として評価できます。 ・「話すこと」「聴くこと」「対話すること」は、こどもに限らず、すべてのライフステージで大事なことですが、特に、こどもへの意識づけはその後の人生に大きな意味がありそうです。本事業から発展して、市民サービスの一環に定着するといいですね。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・対象が小学生で、かつ哲学的な内容なので難しいとは思いますが、さすがに参加者が少なすぎるので、方法が限られているかもしれませんが、もう少し協働して広報に力を入れたほうがよかったのかもしれませんが。開催内容としては十分だと思った。 ・テーマがとても有意義で、かつ対話という体験ができるのが素晴らしい場所を提供していたのだと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・対話カフェは子ども達にとって継続的に参加できる場、居場所になると思う。人権について学び対話の方法を身に着けることも大事と思う。 ・哲学やファシリテーターと、敢えて難しい言葉（おとなでも）を使用するこだわりは理解できるが、参加人数にもこだわっているのか。もう少し参加者がいても良いのではないか。参加者を増やす方法も必要ではないか。）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・協働事業を通じて、参加者にとって安心して対話する場所が創出されている。新たな担い手や、場の拡充にも寄与され、市民サービスの向上等について尽力された様子を伺うことができ、こちらの評価にしました。 ・地域のつながりが希薄といわれますが、それは全体を俯瞰で見たものに過ぎず、今回の協働事業を通じて、“つながるために必要なこと”、“つながることを必要とする人”について考えるきっかけになると感じました。親子関係においても十分に対話する時間が取れず、もしかしたらコミュニケーションの中で齟齬が生じていることもあるかもしれません。今回設けられたテーマにおいて参加したことがきっかけとなり、家庭内でも“対話”が育まれ、達成目標である「不登校」状態に至る子どもの生きづらさに対し良い影響がもたらされるのではないかと期待します。 また、不登校の児童が登校できるようになることがたった一つの正解でも目標でもないため、対話の中で選択肢が増えたり、自身の中で何かしら腑に落ちるものが得られれば良いなと思います。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりや不登校の方を対象にしているなら、事業目的に不登校改善を追加するべきだと思った。 ・複数回参加しているということは、良く思ってくれているということだから、この事業は必要な事業であると感じた。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で計5回開催していること、参加者も多かったこと、その中でも複数回参加したお子さんもいた事から事業は評価できるものと考えます。 ・年間を通して準備・開催と活動して頂いたことは評価したいです。 ・今後も継続して活動して頂きたいと思います。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも必要とされる事業だと思う。ブラッシュアップして引き続き継続をもとめる。 ・こどもの居場所が求められている中、こどもが親や先生などの比較的近場の人間関係に話にくい事を話せる・質問出来る場所があるのは良いと思う。